『起業でつながるコミュニティづくりと私の親業』

～自らの働きやすさを通して目指す、雇用の創出、地域との関わり、外国人との共生できる居場所づくり～

私はネパール語が話せる 38 歳のシングルマザーで 2 人の子ども（長女小 1、長男年中）がいます。

青年海外協力隊としてネパールで 2 年間活動し、ネパール人と結婚。ネパール人コミュニティにどっぷりとつかって 7 年程生活していました。

5 年前の離婚を機に地元北九州市に戻り、2 年前から実家を増築し、現在は実母と子どもたちと暮らしています。私が今回応募した理由は、私が起業することによって、自身もそして地域のコミュニティや自分の家族、雇用に関しても誰もが笑顔でいられる居場所をつくれると思い、みなさんに私の夢を知っていただきたく応募いたしました。

起業の計画としては、1 階はレストラン、2 階はハラールフード販売と私の事務所スペース（子どもの学習やミーティングスペース）という戸建ての物件で考えています。

■雇用の創出

＜私のレストラン＞

•ネパール人の料理人と接客スタッフ（日本人と外国人）で考えています。

すべてのスタッフが週休 2 日以上取得できるように、料理人 3 名、接客スタッフは 2 名以上を雇います。

•日本人スタッフは介護や育児で時間に制約がある人を積極的に正社員として採用します。

看護休暇や介護休暇、また生理休暇などを取得してもよいという概念を誰もが持つようにお互いの思いやりを大切にします。

•外国人スタッフは日本語が挨拶程度でも学ぶ意欲があれば積極的に採用します。

＜私の実姉 2 人の会社＞

•実姉夫婦（長女）の営んでいるみかん農園と実姉夫婦（次女）の営んでいる左官業にネパール人の技能実

習生や特定技能ビザの人たちを受け入れてもらい、人手不足の解消に努めます。農園をしている義兄は私と同様にネパールで青年海外協力隊の隊員でしたし、姉（長女）も英語で会話ができるのでコミュニケーションには問題ないです。左官業を営んでいる実姉夫婦（次女）は外国人を雇うことに対して抵抗がないです。しかしながら、この２つの会社の共通課題としてはビザの手続きと言語サポートなので、その部分を私の会社がサポートします。

ネパール人はとても穏やかで親日な方が多いです。ただ、貧困層は教育をきちんと受けられていない人が多いため、外国で働くうえで言語のハードルがとても高いです。ネパールでは、ドバイなど安く簡単に取得できるビザでドバイに渡り、厳しい労働環境で言葉もわからず低賃金で身体を壊すまたは原因不明で亡くなって帰国する方が多くいます。実際日本でもドキュメンタリーとして放送されていましたが、40 度を超える環境で水を飲む時間も水も与えてもらえず、海水を飲んで喉の渇きを凌ぎ腎不全になった方がいました。結局、働くことができず帰国して貧困家族はさらに貧困になったという内容でした。出稼ぎ大国ネパールは行ける国によって人生が左右されます。ネパールの元親戚たちがコンサルタント会社を経営しているので、日本で働けるビザをサポートしてもらうようにコンサルタントの仲介料を半額は私の会社が負担し、一人でも多くのネパール人に健全に働ける環境を与えたいと思います。

■地域との関わり

＜月一回開催の誰でも食堂＞

月に一度ドネーション形式でネパールカレーを提供します。誰でも利用ができ、野菜カレーと豆スープを提供し、ネパールの食堂や家庭のようにおかわり自由で召し上がってもらいます。「プギョ＝もういりません」と客が言うまで勝手にお皿に料理がつがれるルールです。この誰でも食堂により、みんながお腹いっぱいになりながらも、ネパール文化に食を通して触れることができます。売上の一部をその時々の世界情

勢を把握した上で、その都度困っている国や地域に寄付します。

＜仕入れ野菜は地元農家の廃棄野菜＞

出荷できない規格外野菜を直接農家に買い取りに行きます。今年度、北九州市で農業協同組合の女性部内でフレッシュミズ（おおむね 45 歳以下の女性たちで作られるグループ）を姉や姉の友人たちとともに発足させ、毎月様々な活動を行っています。フレッシュミズの活動では、合馬の竹で流しそうめんをしたり、苗をいただいて子どもたちとバケツ稲を植えたりと、農業協同組合を通して農家の方々と関わる機会を増やすことができました。その中で、人脈をつくっていき、形が悪かったりサイズが小さかったりする出荷に至らなかった野菜を農家の方々から買い取ってレストランで使用します。野菜を育ててくださった農家の方々と直接コミュニケーションをとれるだけでなく、農家の方々にも利益となり地産地消や「もったいない」にもつながる活動になると思います。

■外国人との共生

＜ハラールフード販売＞

ホストファミリーとしてイスラム教の方を過去 2 回受け入れた経験があります。名古屋市に住んでいた時は、ハラールフード店は多くあったので材料を得ることに問題はなかったのですが、北九州市にはハラールフードを販売している店が限られており、私の住んでいる周辺には一軒もないです。宗教に限らず一人でも多くの人が北九州市を「住みやすい街！」と思ってもらえるように販売します。

＜日本と外国との相互理解に努める＞

「郷に入れば郷に従え」という諺があります。郷に従う前に、まずは互いの文化を受け止めて理解するところから始まると思いますが、異文化を理解せずに自文化を強要しようとするので衝突が起き、問題になってしまうのだと思います。私が起業する中で出会うスタッフや外国人とは、日本で暮らしていく中での悩みや「違い」などを話し合う時間をつくります。住居でトラブルがあった際にサポートに入り、日本人

とスタッフとの相互理解に努めます。

また、国や自治体主催の無料の日本語クラスを受講してもらうようにスタッフや店内で情報発信をし、スタッフにおいては1年に1コース履修してもらうなど継続的な日本語の学習プログラムに参加してもらいます。日本語クラスを履修している期間は、学習時間を考慮した勤務時間で働いてもらいます。

■自らの働きやすさ

•子どもたちの通学路に店を構えることで子どもが帰宅しやすいようにします。私の娘は現在小学校1年生でバス通学をしています。現在の自宅は山の麓にあり、小学校までのバス通学時間は乗り継ぎ時間を考えると片道1時間ほどかかります。その小学校自体様々な地域から児童を受け入れているため、学童がありません。息子も娘と同じ小学校に通う可能性があるため、小学校からあまり遠くないバス通学のルートで起業すれば、子どもたちも私もお互いが過ごしやすい環境で仕事や学業ができると思います。

•子どもたちに「おかえり」と言える環境を維持します。

私は数年前から在宅でできる仕事をしています。現在はハイブリッドで月5回程度は会社に出社していますが、ほぼ毎日「おかえり」と言える環境で仕事ができています。私は小学校1年生のころから首に鍵をかけていた「かぎっ子」だったので、家に帰るといつも心細くて怖かったことを今でも覚えています。

現在のような在宅での仕事を希望していますが、現在の職業は5年間の期限付き契約社員なので数年後には就職活動をしなければなりません。40代での病弱な子を持つ休みの多い女性の雇われ先はかなり限られていると思います。

•突然の休みも代わりがいる体制をつくります。

前述の通り、私の子どもたちは病弱で持病もあり年に1度はそれぞれが入院している状況で、入院付き添いが必要になるときにはできるかぎり付き添ってあげたいです。

また、母は現在70歳で、健康で元気で育児を常にサポートしてもらっていますが、いずれ介護も必要にな

ってくると思います。その時に、母に寄り添った介護ができる環境で働きたいです。会社にフルタイムで勤めながらこのような介護も育児も責任を持ってやりたいと主張すれば、「わがまま」だと思う育児も介護もしていない、したくてもできない同僚から言われることでしょう。ただ、突然の休みも代わりがいる体制をつくることができれば、また、会社自体がそのような休みに理解を示すのであれば、それはわがままではなく、家族と真剣に向き合っている証拠であると思われると思います。

今のこの社会では、同僚に申し訳ないと言いながら介護休暇や看護休暇を取得する人たちがいます。また、それらの休暇を取得しづらい会社もあります。私自身も「申し訳ないです」と周囲に言って無給の看護休暇をとっていますが、他の同僚が介護で休んだり看護で休んだりするのを「申し訳ない」と言っていることに常に違和感を覚えています。介護や育児は誰でも起こりうるイベントであるので、私の起業は絶対に「申し訳ない」と言わせない・思わせないを目標に会社全体でスタッフ一人ひとりにあったサポートができる組織づくりをします。

今回の起業では元夫（ネパール人）と行う予定です。彼とは、現在では子育てのパートナーとして良い関係を築けています。離婚を機に自立でき父親業にも熱心な元夫を見て、今回ビジネスパートナーとして選ぶことにしました。また、彼の親族の多くが東海エリアでレストランを経営しており、親族から経営のノウハウも学べると考えました。そして、私も日本人感覚の物差しでネパール人に対して物事を言ってしまうことがありますが、そのようなときに仲介として説明してくれるのも彼であるため、私とスタッフとのいい緩和剤になると考えました。子どもたちには、両親が離婚していても「親」として、お互いを尊重できる新しい家族のカタチを子どもたちに示せるとも思っています。

外勤でたまたま福岡市を訪れた際、地下鉄の電車内広告「夢のような話を、本気でしよう」というメッセージが頭から離れず検索して応募に至ったのですが、今回の応募で私の夢がさらに具体化できたことにと

てもうれしく思います。

『起業でつながるコミュニティづくりと私の親業』

〈自らの働きやすさを通して目指す 雇用の創出、地域との関わり、外国人との共生の居場所づくり〉

わたし

38オシングルマザー歴5年目
青年海外協力隊でネパールにて活動経験あり
離婚を機に地元北九州に戻り、
2年前から貯めたお金で実家を増築し、
実母と子どもたちと楽しく暮らしている。

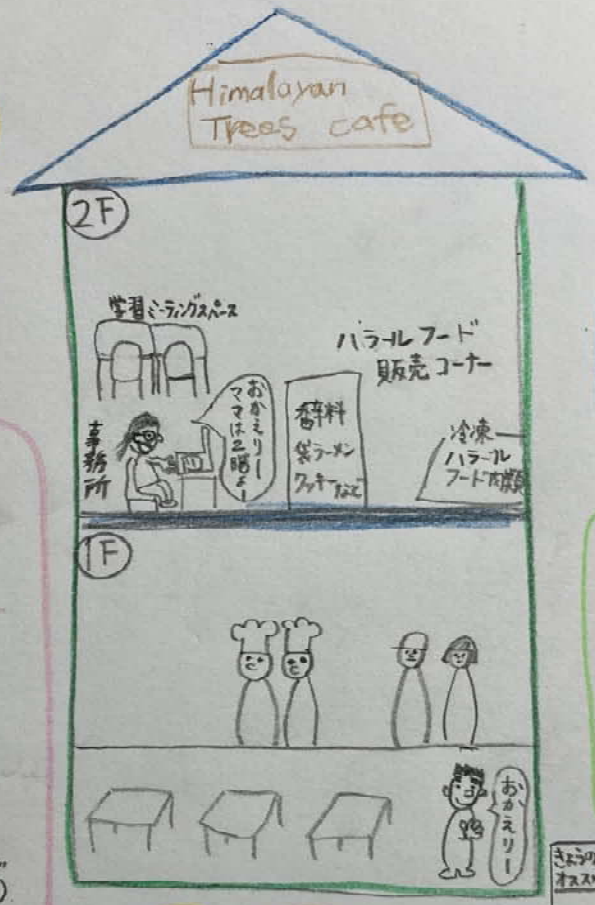
小1長女（設定は小3）
年中長男（設定は小1）
＊小学校はバス通学

[雇用の創出]

◦私のレストラン
ネパール人の料理人と接客スタッフ
日本人の接客スタッフ

・週休2日以上取得できるように料理人3名
接客スタッフは2名以上を正規雇用として雇う
・日本人スタッフは介護や育児で長時間勤務ができない人や突発で休む事があり正規で働けない人を積極採用する
・外国人スタッフは日本語があいさつ程度でもやる気があれば積極採用する

◦その他
・私の実姉（長女）の営んでいるみかん農家（義兄もネパールで協力隊だった）
＋
・私の実姉（次女）の営んでいる左官業
⇨工事現場も農家も人手不足。
外国人雇用には全く抵抗はないが、ビザの手続きがわからない。そこで私が特定技能ビザや技能実習ビザの手続きをサポートし、人手不足を解消させる。言語サポートもおこなう。



元夫 ネパール人
日本永住者で日本語でのコミュニケーションは問題ない。
私とのやりとりは基本ネパール語
親戚の7割は日本在住で多くがレストランを経営している。

[地域との関わり]

◦月1回の誰でも食堂を開く
ネパールの食堂のように野菜カレーと豆スープを提供し、おかわり自由で食べて帰ってもらう。ドネーションなので0円～カレーを提供。
「フロギョ！もういらない！」と言うまで隣手につがれるルール。
みんながお腹いっぱいになってネパール文化に触れてもらう。
売上の一部を寄付する。

◦仕入れ野菜は地元農家の廃棄野菜
出荷できない規格外野菜を直接農家に買いとりに行く。

[外国人との共生]

・ハラールフード販売
宗教限らず一人でも多くの人が北九州市を「住みやすい街」と思ってもらえるように「食」の販売をする。

・日本と外国との相互理解に努める
日本で暮らしていくなかでの悩みや違いなどを話し合う時間をつくる
住居でなにかトラブルがあればサポートする
国や自治体主催している日本語クラスの紹介をし、必ず1年に1コースは修了してもらう（日本語クラスの時間も考慮した勤務時間を考える）

ただいまー

[自らの働きやすさ]

・子どもたちの通学ルートに店を構えることで子どもが帰宅しやすくなる
・子どもたちにおかえりと言える環境
・突然の休みも代わりがいる体制がつくれる